

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌宮の森校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	2025年11月 5日 ～ 2025年 11月 25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	そのお子様の発達に合わせて個別の療育を行っている。	お子様の発達のプロセスを見極めながら個別療育のみならず、集団療育も定期的に取り入れています。	そのお子さんの集団療育での課題を個別療育の時に、支援内容に盛り込んで活動を行っていくことで、より集団になじめるようにしていきます。また、発達段階において移行支援が必要なお子様に対しては支援計画書の中に計画を立案していくようにします。
2	保護者様にもお子様の様子がわかる様に、毎回療育の振り返りのお話をさせて頂いている。送迎がない分、家族支援のお声がけ（支援参観）を勧めやすい。	振り返りのお話をするときにお子様の良いところをお伝えするとともに、現状の様子もお伝えして共有しています。実際に様子をみていただけるので、支援の内容をお伝えしやすい。	来所が難しい保護者様には、連絡帳やline等で情報の共有を行っています。
3	送迎はしていませんが、東西線西28丁目の駅から近い事。	お問合せの時には駅の名前をお伝えしたり、周知活動の時には地図を載せたプリントを用意して場所が分かりやすいようにしています。	単独通所をご希望の場合は、駅まで送り迎えを行い自立して通所できるような支援を行っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の構造上、お子様の安全面を考慮すると空間が限られしまい活動が限られてしまう事。	物件の構造上の問題が挙げられる。	現状から安全面を考えた机や遊具・玩具等の移動や活動しやすい場を確保して支援を行っています。
2	保護者会等の機会の定期的な提供がされていない。	開催日の設定の難しさを感じています。また、実施慣れている職員の不足が課題と思われます。	ゆとりを持って開催日時を決めることと、保護者様と職員に負担のない内容を企画運営することだと思います。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌宮の森校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 5 名

回収数 5 名分

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	1		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2		2	1		保護者様の中には子どもがデイスを使っていることを知られたくない保護者様もいらっしゃるため、地域のこどもと活動する機会を作ることには難しいと感じています。
保護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	1				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3		2			今年度は、茶話会(ファミカフェ)を実施することができました。保護者様の心情を考えながらご家族やご兄弟への支援を考えていきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2			3		・保護者様に見えやすいところにマニュアルを設置し、以前からいらっしゃる保護者様にも周知していきいます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。		1		3		・定期的に訓練は行っているので、ブログなどSNSを通じて保護者様に数値していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3			2	・誰でも出入りできる構造の為、防犯上、やや気がかりである。	・不審者に対する訓練に取り組み安全を保てるようにします。今後、ドアベルの設置を検討します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2			3		・今まで事故は発生していないため、説明の機会はありません。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5					
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				・いつもありがとうございます。	・これからもお子さんの発達に寄り添った支援を心掛けます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌宮の森校					公表日	2026 年 2 月 14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		小集団の時は物を移動して対応しています。	ハード面のことなので、今ある現状で中で安全面に配慮して支援をしていきます。小集団でのサーキットなどの運動療育の確保はできています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	お子さんに安心感が持てるように、配慮しながら支援をさせて頂いています。	人手が少ない状態なので今後も採用面接をしてもらえるように上司に要望していきます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	手を洗う場所には視覚的にわかりやすく手洗いの仕方や、うがいの仕方を掲示しています。	事業所は2階にあるがエレベーターの設置は不可能です。また、階段もやや急なため手すりのご利用を促し安全面に気を付けていただけるように注意喚起させて頂きます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日割り当てをして掃除をしています。また、汚れたところがあったときは、適宜、掃除を行っています。	特に冬場は、玄関や靴箱の汚れ、また、外階段が雪で滑りやすいので、気を配っていきます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		お子様の特性に合わせて、使用する部屋を決めています。	机の出し入れなどを気を付けながら行っています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員の担当業務を決めて行っています。	業務に支障が出ないように、日ごろから計画に対する振り返りを行っています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内評価会議の上、保護者様の評価を共有しています。	受け取った評価を必ず可視化して職員にも周知していきます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		運営会議や支援会議を実施しています。	それぞれの職員の意識改革が進むような促しをしていきます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第3者の視点を入れることが望ましい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		自社の発達支援研究所でのテーマ研修の受講や、勤務年数ごとの研修の機会があります。	勤務の状況によっては受講できない時もあるため、録画をしていただき職員全員が受講できるようにしてもらいます。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		個別支援計画上では領域ごとの目標立てをして作成しています。	今後、支援プログラムについては必要に応じて見直しを行っていきます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		普段から保護者様とお話をしているためアセスメントやニーズの聞き取りを行いながら課題の分析を行い計画立てしていきます。	児発管だけではなく、職員も児の理解を深めるためにもアセスメントなどにも携わってもらいます。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別療育が中心なので、職員の方が支援内容やお子様の様子を把握していることがある為、互いに支援の共通理解を図っています。	今後も続けて行っていきます。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員にお子様のファイルの個別支援計画書を常に見ていただき、支援に対する理解を図っています。	支援内容にブレが出ないように今後も続けていきます。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々、振り返りの時に保護者様とお話することで情報を収集しています。	今後は来所されない保護者様とやり取りできるようにしていきます。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ご本人支援のみならず家族支援にも力を入れています。アセスメントから必要な支援を取り入れ支援していきます。	各々の職員がお子様のその時の様子をしっかりと把握して具体的な支援内容を考えることができる様に、情報交換をしていきます。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別療育の時は支援計画書をもとに個別で行っているが、集団療育の時は、職員で立案しています。	普段どのような教材を使っているか職員同士で情報交換ができる場を作っていきます。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		お子様の状況の把握に努めています。	それぞれの職員がお子様の得意不得意に合わせた教材の研修に取り組める様に促しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育と小集団の立案と実施を行っています。	支援計画書への記載を行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼時に共通認識が必要なお子様の様子を共有しています。	支援会議を含めてお子様の様子の支援内容や共通の認識が図れるように努めています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼の時間を作り、お子さんの情報共有を行っています。	支援会議を含めてお子様の様子の支援内容や共通の認識が図れるように努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録は、支援後すぐに残すことを習慣づけるようにしています。	検証までできていないですが、お子様の様子によっては支援の改善はできていると思われます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		次の支援計画書更新のためのスプレッドシートから見直しの時期を把握できるようにしています。	そのお子様にとって目指す目標が違ったときに、再度アセスメント→モニタリングができるように努めます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、基本的にお子様の担当者が参加できる様にしています。	担当職員が参加できるように希望を出しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		ニーズを確認したうえで教育機関等と連携を取っています。	ここでの支援だけではなく、お子様にとって有益な体制を整えています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		園に見学に行かせて頂きお話を聞いたり、こちらでの様子をお伝えすることができています。	保護者様のニーズに応じて対応していきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様のニーズがあったら取り組みたいと思います。	就学前は、保護者様にとっても不安な時期にあたるので、相談に応じています。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		年に2回ほど地域コーディネーターの方に来訪いただいています。また、自社の発達支援研究所の事例検討会を通して発達心理学専門の先生にスーパーバイズを受けています。	何か困ったときには、地域のコーディネーターを頼りにしていきます。また、自社での「お助け隊」などのネットワークを利用していきます。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	保育園や幼稚園に通っているお子さんが多いため、保護者様のニーズがあまりありません。	必要に応じて行っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援終了後に活動内容の振り返りを行い、お子様の様子をお伝えしている。	来所が少ない保護者様には、ブログ・lineや通信などを使い共通理解を図るようにしています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントトレーニングを行えるスタッフがない。	困りごとの際は、随時、面談する時間を設けています。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にご説明しています。	運営規程に関しては、閲覧できるようところに設置しています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメント時に保護者様のニーズをお聞きしています。お子様は普段の様子から個別支援計画書に強みとして取り入れることができるものは、立案しています。	5領域の義務化に伴って、お子様の得意なことを取り入れることが出来たり反面、保護者様の意向を取り入れることが難しく感じることがあります。

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者様の時間を調整していただきながら、計画をご説明し同意を頂いています。	お忙しい保護者様にはline等を使ってご連絡しています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		子育ての悩みに関しては、随時、お受けしています。こちらからお声がけさせていただくときもあります。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		児発さんの保護者様は保護者様同士の交流が自然に起きています。小集団のないようによてはきょうだいの参加もあります。	小集団の中で、きょうだいも参加できるように考えていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		すぐに対応できる体制を整えています。	前回面談した方には、定期的にお声が必要と思われるので、様子を見て対応していきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的なブログの更新やInstagramの更新、通信などを発行しています。	保護者様の目に留まる様に掲載内容を考えていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いに関しては、情報の漏洩がないように鍵の付いているところに収納を義務付けています。	今後も各職員にも個人情報の取り扱いに関して意識してもらえるように、注意喚起していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性や発達段階に応じて、絵カードを使用したり、見通しを持てる様にスケジュールを可視化して対応しています。	お子様が安心して過ごせるように、今後も引き続き配慮していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	期間を決めて、未利用者様に対する未就学児さんへの無料開放を行っています。	地域の方には知ってもらえるように、周知していきます。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		義務化に伴い、委員会の立ち上げや机上訓練や実地訓練、研修などを行っています。	今後も研修や訓練を行っていきます。保護者様に対してご理解いただけるように、考えていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		義務化に伴い、委員会の立ち上げや机上訓練や実地訓練、研修などを行っています。	今後も研修や訓練を行っていきます。保護者様に対してご理解いただけるように、考えていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認を行っています。予防接種に関しては、保護者様からの連絡で把握していきます。	今後も事前確認を行っていきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、アレルギーで医師の指示書が必要なお子様はいらっしゃいません。	アレルギーがあつて医師の指示書が必要なお子様がいらっしゃった時には、対応していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画の作成を行っています。	事業所の環境に配慮して支援をしています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		お子様の安全に留意して支援を行っています。危ないところなどは、職員間での周知を行っています。	今後も安全に過ごせるようにしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員にはヒヤリハット報告書を使って、改善策を意識していただいています。	ヒヤリハット報告書の持つ意味を職員間で共有して、大きな事故につながらないように支援して行きます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		風通しのいい事業所作りに取り組んでいます。また、研修も行っています。	今後も虐待の防止に努めます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に該当しないお子さんが多いので、対応が必要なお子様の保護者様には理解が得られるように、ご説明していきます。	身体拘束が必要なお子様はいらっしゃいませんが、もし対象者がおいでの時は、保護者様の気持ちに配慮しながら、理解して頂けるようにします。